

# 幼稚園教員養成におけるメンタリング

## — 育ち合う三者（養成大学・幼稚園・学生）の関係 —

佐々 加代子 ・ 金田 利子

鈴木 慎一郎 ・ 大出 美知子

2007年度に東京学芸大学と白梅学園大学との共同コンソーシアムによる「幼稚園教員養成メンタリング」研究プロジェクト、2008年度は白梅学園大学だけで継続的に教育プラクティスを実施してきた。養成課程で学び、幼稚園教員を目指す学生たちにとっては、専門職として求められる教員の責務、想定される業務の遂行の可否と問われる資質について悩み、その不安感は学年を重ねるごとに増すという。メンタリングの導入による教育プラクティスとその成果はその幼稚園教員養成課程に風穴をあけることにつながった。、学生自身が現場のなかで感じ取るさまざまな不安感をその都度丁寧なうけとめ、解消への糸口を見出すためにFCが機能してきた。とまどう学生、学生を受けとめて支援するメンター自身の悩みと学生の不安感をもFCが受けとめてできた。従来の養成課程にはFCは居ない。

09年度は1)2年にわたる個別事例の検討、2)共通項の抽出、3)FCの役割の明確化、4)メンタリング導入による効果を得た上での白梅学園大学養成課程への提言5)教育システムへの応用をまとめること、6)教育システムについての比較検討、においた。

共通項としては、幼稚園教員としての責務、業務についての理解不足がめだち、そのことが不安感をつのらせていることと連動していることがわ

かった。その不安をFCが拾い出し、丁寧に対応してきた過程があったことが、学生自身のその後の職業選択に連動していた。教育プラクティスは、実習の現場と養成校との関係だけでは見出せない「育ち合う三者の関係」が見出せた。しかしながらこの成果は個別の丁寧な関係によってなされたものであった。多くの養成学生を抱えたときに、教育システムのなかにこの教育プラクティスを生かしていくには、多くのメンターの存在とFCの機能が求められてくる。さらに、養成大学と幼稚園、学生との関係が個別的にもつながり、丁寧にかわりあう関係がなくてはならないことになる。多くの学生がこの教育システムにあったような可能な教育システムの検討が求められる。それは幼稚園のみならず、ほかの教員免許・資格取得においても同様なことがある。試案を提示した。なお、6)の検討はできなかった。東京学芸大学は研究実践が終るとその後の研究が継続しにくいということが起こったためである。

研究助成金については、主として書籍資料代に使わせていただいた。新人教員養成に関わる教員の指導の過程にかかわるもの、教育内容に関わるもの、新人教員へのガイド論、教育者から教育論など、に加えて、FCの役割について言及することから、臨床心理関係資料代とした。感謝申し上げます。